

いきいき南丹

-24-

お元氣ですか？
保健師です。



赤ちゃんのBCG接種で結核予防

～ご存じですか？「結核」のこと～

「結核」というと過去の病気と思われる方もあるかと思いますが、日本でも毎年三万人近くが発症している、現代の感染症なのです。

『結核』とは？

結核は、結核菌という細菌が原因となって起きる病気で、空気を媒介して人から人に感染します。結核は主に肺に炎症を起こす病気ですが、骨や腎臓などにも病巣を作る場合があります。

どうやって感染する？

咳やくしゃみをした時に、飛び散る唾やタンなどの中の結核菌を周りの人が吸い込むことによって感染します。

唾やタンの中に菌を出していない軽症の場合は、他人にうつす恐れはありません。

『感染』と『発病』

結核菌に感染しても、必ずしも発病するわけではありません。身体の免疫機能が働いて、結核菌の増殖を抑えまです。しかし、結核菌を免疫力だけでは完全に殺すことはできません。身体の免疫力が弱まると、再び菌が増殖し活発に活動を始め発病します。

乳児期の予防接種を確実に

抵抗力のない赤ちゃんは、結核に感染すると重症化しやすく、生命にもかかわることがあります。それを予防するのがBCG接種です。

お母さんから赤ちゃんに受け継がれた、病気に対する抵抗力（免疫）は、生後八ヵ月ごろまでに自然に失われます。この時期を過ぎると赤ちゃん自身が免疫を作って病気を予防する必要がでてきます。これに役立つのが予防接種です。

BCGは毒性を弱めたウシ型結核菌で作ったワクチンで、結核の免疫をつけるために接種します。このBCG接

種によって、重症の結核の約八割が予防できるといわれています。接種期間は生後六ヵ月までに受けることが定められており、南丹市では三〜四ヵ月児健診で実施しています。

乳幼児の結核の多くは家族から感染しています。つまり、赤ちゃんを結核から守るには家族が結核に対する知識を持ち、日ごろから健康管理を行うことが大切なのです。

早期発見・早期治療を

結核は、何よりも早期発見・早期治療が大切です。結核の初期症状は風邪とよく似ていますが、気付かないまま病状が悪化することがあります。風邪かな？と思っても、長引く咳や、微熱、倦怠感・タンが出る・体重減少・胸痛などの症状の時は、結核を疑って病院で検査をしてください。

また、高齢者は若い頃に結核が流行したため、結核にすでに感染している人が多く、加齢や病気などで体力・抵抗

力が低下した時に、眠っていた菌が目覚まし発病しやすくなります。

結核は服薬すれば治ります

結核を発病しても規則的に服薬すれば治ります。逆に、不規則な服薬を続けると、結核菌がその薬に対して耐性を持つてしまい、薬が効かない菌（耐性菌）ができてしまいます。大事なのは、処方された薬をきちんと飲むことです。

